

・3歳児のご飯

味間こども園では、3歳児のみ白米を毎日持たせないといけない。働いている保護者が多い中で(3歳児は長時間保育しかないからみんな働いている)、なぜ3歳児のみ白米を持たせなくてはいけないのでしょうか？0～2歳児は給食室、4～5歳は学校給食となっており、3歳児だけが持たせる理由がわかりません。

<回答> (こども未来課)

現在、市内すべての保育園・こども園におきまして、3歳児は白ごはんを持参いただいています。

0～2歳児は白ごはんも含めた給食全部が国の補助対象になりますが、3～5歳児では国の補助対象になるのはおかずのみのため、3～5歳児は白ごはんを家から持参いただくことが全国的に一般的な形となっています。

丹波篠山市では、4・5歳児の食育を学校給食センターで調理した学校給食を用いて市内統一で行う方針としていることから、市立こども園の4・5歳児についても白ごはんを含む学校給食を提供させていただいており、結果、3歳児のみ白ごはんを持参いただく形となっています。

3～5歳児に白ごはんを提供している他市では、白ごはん代を保護者から徴収しています。金銭的負担が増えても白ごはん提供を望まれるかなど、アンケート等の実施により保護者ニーズを把握し、検討を進めたいと考えます。

・セキュリティー問題

こども園・幼稚園・保育園のセキュリティーが甘く感じます。保護者の名札を付けて入ることになっていますが、それだけで本当に安全と言えるのでしょうか？施設によっては自由に出入りできるような感じがしますが…。

<回答> (こども未来課)

不審者対策としましては、職員室に園長等が常駐する保育園やこども園を整備する際、来訪者が職員室前を通らなければ入れない設計としており、また、敷地を囲む形でフェンスを設け、不審者が安易には侵入できないよう設備面において水際対策をとっています。

さらに、すべての保育園・幼稚園・こども園に防犯カメラを設置しており、不審者侵入の抑止力となっています。敷地を囲むフェンスについてもブロック塀ではなく、視線をさえぎらないフェンスとすることで死角をなくし、周辺住民の目も届くようにすることで、犯罪発生の抑止力としています。

施設の特性上、不審者の侵入を完全には阻むことができないため、不審者の侵入があった場合に適切に対応できることが必要です。

全職員が職員名札とともに警笛を携行しており、異常があれば笛の音で周りの職員へ知らせ、不審者の侵入であれば、必要に応じてさすまたで動きを封じます。また、すべての

保育園・幼稚園・こども園に県警ホットラインを設置しており、ボタンを押せば県警本部に直接つながり、異常を直ちに知らせます。園児についても、所定の避難場所へ避難します。

そして、年1回以上、不審者を想定した訓練を実施しており、こうした一連の対応が、全職員、スムーズに行うことができるようにし、水際対応と侵入後の対応の両面において園児の安全確保に努めています。

#### ・待機児童問題

都市部と違い点数が明確でないため、自分が今どの位置で待機なのか、入れるかなどがわかりにくいです。点数をもっと明確にしてほしいです。市役所に電話をかけても点数がわからないので、待機順が本当なのかも怪しく感じます。

また兄弟姉妹で園が違うのは本当に困ります。通常であれば一つの施設でいいところを、何か所も回って送迎し、その後に出勤はつらいです。

<回答> (こども未来課)

保育所やこども園の入所調整にあたりましては、保育の必要性を客観的にとらえるための点数表に基づき、各家庭の就労状況等に応じて園児ごとに点数化しています。

しかしながら、ご家庭の特殊な事情により点数が上下することは少なく、多くの方が共働きによる点数で、同点の方が多くいらっしゃる状況です。したがって、点数をお知らせしたとしてもどの位置で待機いただいているのかはわからず、また、入退所や申込状況は日々変わるため、最新の待機状況はこども未来課へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

兄弟姉妹で在籍園が異なっていることについては、入所調整段階でご了承いただいた上でのご入所ではありますが、大変申し訳なく感じており、待機児童等の解消に努めてまいります。

#### ・農都のめぐみ米

これは学校給食で使われているのでしょうか？こんな素敵な地元のお米があるのに…販売はされているのでしょうか？市民の口に入るようにしてほしいです。

<回答> (農都政策課)

2020年12月号広報紙のまちかどリポートにおいて、「農都のめぐみ米」取材記事の作成にご協力いただきました。

化学肥料の使用を少なくし生きものに配慮した「農都のめぐみ米」の栽培は、令和2年には個々の農家58名、計377haで取り組んでいただきました。

栽培されたお米の流通は、環境に配慮したお米「特別栽培米」として消費者への直接販売や、JAへ出荷し一般の米と区分せずに流通しているのが現状です。

令和3年には、「農都のめぐみ米」として市民に食べていただけるよう、販売に向けてJAと共に取り組みを進めています。

また、共同で米づくりをされている「集落営農組織」にも栽培をお願いしたところ、子どもたちに安全なお米を食べてもらおうと11組織、計30haの協力が得られました。

この秋には学校給食で農都のめぐみ米を使用し、子どもたちが農業や農村環境の大切さを学ぶ機会を提供していきます。

#### ・3年保育について

隣の丹波市も3年保育をしています。なぜ篠山は3年保育にならないのでしょうか？多くの方が言っていると思いますが、しっかりとした理由を知りたいです。

<回答>（こども未来課）

兵庫県下におきましても、3年保育は、私立幼稚園や私立こども園において盛んに取り組まれています。本市につきましては、私立幼稚園がなく、私立こども園も2園しかないので、3歳児の短時間保育の受入枠は多くないのが現状です。

一方、本市で多くを占める公立園につきましては、県下の公立幼稚園において3年保育を実施しているのは278園中82園（29.5%）で、さらに園児数でみた場合、公立幼稚園の園児のうち3歳児は13.1%、86.9%は4・5歳児となっており、公立園においては3年保育が必ずしも普及しているとは言えない状況にあります。

公立幼稚園で3年保育を開始された中には、少子化により園児数が減り、複数あった4歳児クラスが1クラス減ったため、空いた1室で3歳児保育をできるようになったとの自治体もありました。本市には公立幼稚園が11園ありますが、ほとんどは4歳児1室、5歳児1室、遊戯室1室の施設構成であり、園児数が減ったとしても保育室が1室丸々空くことはないため、3年保育を実施するためには保育室の増築が全幼稚園において必要になります。現在の敷地において、増築するスペースを確保することは困難と言わざるを得ません。

また、担任の幼稚園教諭を配置する必要があり、現在、保育園・幼稚園・こども園において教諭などの確保が全国的にも課題となっている中、人員確保の面からも3年保育を実施することは難しい状況です。

公立幼稚園で3年保育を開始された自治体に確認したところ、施設面や職員確保の課題を解決するため、幼稚園の統廃合や認定こども園化など、施設を集約することで対応されていました。

本市において幼稚園統廃合や認定こども園化の具体的な計画はありませんが、今後、施設整備等を行う際には、3年保育も検討したいと考えます。

なお、3～5歳児の未就園児（いわゆる在宅保育）を対象に、今年度から「丹波ささやま森のようちえん」事業を開始しており、年10回程度、自然の中で他の子どもとも交流できる機会を設けていますので、是非ご利用願います。

#### ・子育てとお金について

現在、児童手当や乳児医療制度等、支援を頂いていますが、本当に育児はお金がかかります。例えば「すこやか赤ちゃん誕生祝い金」、この支援は第3子以降の赤ちゃんを出産された方のみが受けることのできる制度です。産みたくても産めない女性も、います。赤ちゃんの人数に関係なく、お祝い金が出たら嬉しいのにとおもいます。

<回答案> (社会福祉課)

「すこやか赤ちゃん誕生祝い金」は次代を担う子どもの健やかな成長を願い、出産時における経済的負担を軽減することを目的として、平成27年度から支給を開始しました。当祝い金は少子対策の一環として始まったこともあり、現在のところ、第3子以降の赤ちゃんを出産され、養育される方のみを対象にして支給しています。もちろん、第何子目かであるかに関わらず出産・育児にはお金がかかるため、全ての赤ちゃんの出産に対して祝い金を支給することが望ましいのですが、市の財政事情もあり、現状ではそのような形での支給は難しい状況です。今後市の財政健全化が進むのに応じて、子育てしやすいまちづくりを目指し、祝い金のあり方についても見直してまいります。

#### ・産婦人科について

やはり産婦人科は必要に感じます、選択したいです。市内には一つしかなく、そこにお金をかけるのではなく、選択肢を増やすことで人口も増加するのではないのでしょうか？

<回答>

兵庫医科大学ささやま医療センターの産婦人科がなくなることに危機感を覚え、一昨年度から「丹波篠山市産科医療のあり方検討会」を立ち上げ、市の健康課、市内医師会、保健師、助産師、子育て中のお母さん達を委員に意見交換し、丹波篠山市として今後の周産期医療をどのようにまもるべきか検討を重ねてきました。その結果、全国でも初となるMy助産師センターを設立し、産前産後のケアに力を入れています。現在、市内の産婦人科を増やすことは難しい状況ですが、産科医療の支援に最善を尽くしています。

#### ・今田支所

トイレが和式なので、親子で入ることが出来ません。またおむつ替えスペースもないです。理想は城東支所みたいなのが嬉しいのですが、ご検討お願いします。

<回答> (地域振興課)

現在今田支所については、多目的トイレを含め1・2階各2箇所洋式トイレを整備しております。しかしベビーシート・チェアの整備はできておりません。

今田支所に隣接する今田まちづくりセンターは、多目的トイレを含め1・2階計12箇所すべて洋式トイレであります。また令和3年度更に利便性の向上を図るため、各階多目的トイレ等において扉の変更、暖房洗浄便座、ベビーシート・チェア、自動照明設備等の整備を実施し年内には完成する予定ですので、まちづくりセンターをご利用いただけたらと考えます。

今後も一般利用者はもちろん、子ども連れ、高齢者、障がい者等にも配慮した公共施設整備に取り組めます。

#### ・生活環境について

少人数地区では、幼稚園～中学校までメンバーに変わりがなく、高校で初めて新しい人間関係ができてくるかと思えます。親としては、小さなうちからいろんな人間関係をつくってほしいとは思いますが、だからと言って人が多い地域に簡単には引っ越しできません。何かよい解決方法はないのでしょうか？

・市内の教育の対応について

ここの学校区は人数が少ないから参観ができる、ここの学校区は人数が多いから参観ができない、と対応の違いが気になります。参観のできない学区の保護者からすると、なぜ市内で同じ対応をしてくれないのか、とも思います。参観日が欲しいがために引越しをするわけにもいきません。なぜ市内で同じ対応をしてくれないのでしょうか？

またタブレットに関しても同様です。この学校はタブレットを家に持ち帰れる、この学校は持ち帰りが出来ない、オンライン授業の進み具合、などこちらも市内で同じ対応にしてほしいと思います。

<回答> (学校教育課)

新型コロナの感染拡大により、緊急事態措置実施期間もあったため、丹波篠山市としては、校外から大人数を呼び込むような校内行事（オープンスクール、授業参観等）は自粛するなどの対応をしました。各学校においては、参観授業を学年ごとに時間差を設けて分散したり、人数制限を設けたり、感染リスクの低減を図りながら実施した学校もあります。また、4月以降のコロナ感染拡大、丹波管内の感染状況、校内の感染防止対策等を総合的に判断し、年度当初の授業参観を延期・中止とした学校もあります。コロナ禍により学校行事等が制限される中ですが、あらためて授業参観や児童・生徒の学校生活のようすを見ていただく機会を設定するなど、市教委として、今後も地域に開かれた学校づくりに努めます。

コンピュータ端末の持ち帰りについては、新型コロナウイルス感染症の拡大による臨時休業をきっかけに、大きく取り上げられるようになりました。しかし、丹波篠山市においては、試行的に持ち帰らせた学校もありますが、まずは当初目的とされていたとおり学校で端末を活用することにより学校教育を充実させることを重視しています。まずは、学校における活用を重点に、教員のICT活動指導力の向上と児童生徒のスキルアップを図りながら、持ち帰っての活用についても研究を進めていきます。

・学校区について

丹南校区の見直しはないのでしょうか。私は結婚を機に丹波篠山に来ました。

今は東古佐に住んでいます。丹波篠山の事はまだまだわかりませんが、ご近所のお母さんから現在の味間こども園や味間小学校の話を知っていると、丹南は宅地も増え住吉台もあり人口が集中していると思います。それ故に、児童の数が明らかに偏っています。私が東古佐に住んでいるからというのかもしれませんが、校区の見直しをしてもいいのではないのでしょうか。

今、コロナ禍で密を避けるとなると、人数が多く学校行事が開催できない、行にくい事になっているのではないのでしょうか。各家庭の状況もあり、ご兄弟で学校が違うのは困る等あると思いますが、1人の意見としてお聞きします。

<回答> (教育総務課)

地域の長い歴史の中で、学校は、学校教育の場であると同時に、地域コミュニティの核としての役割を担ってきました。

特に小学校については、地域の方々の帰属意識も高く、さまざまな地域活動もこの小学校区単位で行われてきました。最近では、小学校区を「まちづくり地区」と定め、市内19の地区において特色ある地域づくりが進められています。

こうした地域コミュニティ活動と地域連携による学校運営を進めていくことを総合的に勘案すると、現行の「指定通学区域制度」を維持していく必要があると考えています。

なお、中学校においては、平成11年の合併により旧町境がなくなったことから、旧町での通学区域を残したまま、特定の地域に居住する方においては、学校を選択できる「特定地域選択制度」を平成16年から導入しています。

・丹南校区に

保育園またはこども園は増やせないのでしょうか。

質問1の丹南校区の人口増に伴い、増やすことを検討されませんか。こちらは、増やすに当たり条件などがあるかと思いますが、調べずの質問です。

<回答> (こども未来課)

丹南校区にある味間こども園につきましては、年々入園希望者が増えており、今年度の待機児童は市内全体で11名、そのうち10名は味間こども園への入園を希望されていた方です。

市全体が進む少子化、市内転居による味間地区への人口集中、定住促進による転入者の増、住宅開発の状況、就労希望の増減など、出生数以外にも考慮すべき要素が多いため、味間こども園の将来の入園希望者数を予測することは難しいです。

しかしながら、現に待機児童が発生していることから、引き続き待機児童の解消に向けて検討を進めます。